|  |
| --- |
| 第5期高砂市地域福祉推進計画　進捗状況一覧表 |

（注記１）担当の略語は以下のとおり

|  |
| --- |
| 総務 …… 総務課  地域 …… 地域福祉課 地域福祉担当  ＶＣ …… 地域福祉課 ボランティア活動センター担当  包括 …… 地域包括支援センター  介護 …… 介護事業課 |

（注記２）進捗状況の評価欄における記号は以下のとおり

|  |
| --- |
| ◎：達成できた　　○：おおむね達成できた　　△：一部達成できた　　×：達成できなかった |

安全で安心して暮らせる環境づくり

基本目標

すべての住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、高齢者や障がいのある人、子ども・子育て世代など、要援護となる可能性が高い方への支援や、市民による防災マップづくりの支援とともに、地域においても普段からの声かけや見守り、防災・防犯・安全対策の面からも市民意識の向上を図ります。

**推進目標１　住みやすい生活環境の整備**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①災害ボランティアセンターの体制整備 | VC | ・災害時、ボランティア活動を円滑に行うために市やボランティア登録団体等との連携強化に努め、災害ボランティア活動のための環境整備を行う。また、「災害ボランティアセンター運営マニュアル」の具現化に向けた取り組みを行う。  ・災害時支援ボランティア登録制度については、継続して実施する。 | ・災害時支援ボランティア登録制度を、継続して実施した。  （登録：8団体、個人32人）  ・高砂市総合防災訓練に参加し、避難所開設、運営訓練を行った。  ・災害時支援ボランティア研修会を市と協働で実施した。  （31人受講） | ○ |

**推進目標２　安心して暮らせる地域のコミュニティづくりの推進**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①地域見守り運動事業の推進 | 地域 | ・ひとり暮らし高齢者や援護が必要な人が安心して暮らせるよう、見守り活動をさらに充実させ、緊急時にも対応できるネットワークづくりを推進する。 | ・見守り活動のための助成金を交付し、市内全域で見守り活動を行った。  ・ひとり暮らし高齢者食事サービス事業  （年間8,271食）  ・おせち料理宅配サービス事業  （利用者200人）  ・れんらくばんの配布 | ○ |
| ②要援護者実態調査による地域福祉課題の把握と情報の共有 | 包括 | ・調査を通じて、要援護者（地域からの孤立や重層的な課題を抱える人、世帯）を把握し、関係機関・団体と協力して包括的、継続的な支援を行う。  ・また、災害時の救援活動に備えることを目的に、災害時要援護者の把握に努め、情報を市へ提供する。 | ・民生委員等の協力を得て、要援護者実態調査を行い、地域福祉課題の把握と情報の共有を図った。  要援護者　　　　　　634人  災害時要援護者　　　870人  一人暮らし高齢者　4,013人  75歳以上の高齢者二人世帯  1,327世帯  障がい者　　　　　1,364人  寝たきり高齢者　　　　37人  準寝たきり高齢者　　　65人  認知症高齢者　　　　　57人  ・調査結果を民生委員に配布。  ・小地域福祉活動の基礎資料とするため申請のあった15箇所の福祉推進委員会等に情報を提供した。 | ○ |
| ③要援護者支援ネットワークづくり | 包括 | ・社協の個人情報保護規程及び市の個人情報保護条例や情報公開条例に基づき個人情報保護に配慮しながら、要援護者実態調査で明らかになった地域福祉課題を、市、社協、地域、福祉関係者が共有し、情報交換や情報共有を図り、共に解決策が見出せるネットワ－クづくりを進める。 | ・調査結果を民生委員に配布。  ・小地域福祉活動の基礎資料とするため申請のあった15箇所の福祉推進委員会等に情報を提供し、共有した。  ・ネットワ－クづくりに向け、困難事例ごとの協力要請、役割分担を行った。  ・「地域ケア会議設置要綱」の中で個別ケア会議を設け、事例に即したネットワークづくりを行った。 | ○ |
| ④虐待や孤立等地域社会がかかえる問題への取り組み | 包括 | ・関係機関と連携し、介護放棄や虐待の早期発見・早期対応に努める。 | ・高齢者虐待相談件数　46件  ・虐待対応ケース会議　7回  ・高齢者虐待評価会議　4回  ・関係機関との連絡・調整は随時  ・市との委託契約に虐待防止法に基づく条項を追加した。 | ○ |

福祉や地域に対する意識の向上

基本目標

　地域福祉活動などへ積極的に参加できる仕組みを構築し、地域の課題を自分たちの課題として受け止め、その解決に向けて行動するといった意識を高めます。また、比較的認知されている福祉教育や体験活動などを通して、高齢者や障がいのある人、子ども・子育て世代などに対する理解を醸成するとともに、職員の地域福祉に対する意識のさらなる向上を図り、協働による地域福祉の推進を担える人材の育成と活用に努めます。

**推進目標１　一人ひとりの意識の向上**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①市民の福祉意識の向上 | 地域 | ・市民の身近な場所で地域福祉について学ぶ機会を増やし、より多くの市民に、地域で支え合うことの大切さを理解してもらえるよう努める。 | ・地域住民を対象に、福祉意識の向上を目的とした講演会や三世代交流事業等を実施した町(校区)福祉推進委員会に対し、助成金を交付(選択・重点メニュー事業)し、身近な場所で地域福祉について学べる機会を設けた。  （延べ6町、8回）  ・小地域福祉活動や地域づくり等をテーマにした出前講座を実施。（5回、延べ287人） | ○ |
| ②「みんなの社協フェア」等市民参加型のイベントによる意識啓発・情報提供 | VC | ・継続してイベントを実施するとともに、中ホ－ルの一部スペ－スを利用した公募型の導入等を行い、市民・関係団体等による一層の参画を進め、意識啓発及び社協活動の周知を図る。 | ・「共に生きる地域づくりをめざして」をテーマに、記念講演、市民活動発表、ボランティア体験・福祉見聞スタンプラリー、食育推進コーナーを行うなど、市民の参画を得て、11月12日(日)に開催した。  （来場者約2,500人）  （協力ボランティア186人） | ○ |
| ③福祉委員や小地域福祉活動の周知 | 地域 | ・福祉委員や小地域福祉活動の取り組みを市民にもっと知ってもらえるよう、広報等に努め、市民の小地域福祉活動への参加・関心を促進する。 | ・社協だよりで小地域福祉部会の活動の様子を 「小地域福祉活動写真展」(毎月)を掲載し、ホームページも活用して、各地域の活動について市民への周知に努めた。また、社協フェアではパネル展示を行い、小地域福祉活動について広報・啓発を行った。 | ○ |

**推進目標２　福祉教育の推進**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①市内の小・中・高等学校に対する福祉教育推進事業の展開 | VC | ・小中学校に対する一律助成を見直すとともに、新たに市内高等学校への助成支援についても実施する。  ・市内高等学校生徒に対する意識啓発を行うとともに、生徒会やボランティアクラブ等と連携した協働事業を検討する。 | ・福祉教育推進事業として市内の小中高等学校に助成支援を実施した。（助成校20校）  ・市内小中高等学校の福祉教育担当教諭対象に福祉教育推進会議を2回開催した。（延べ33人）  ・高校生ボランティア育成事業(ＴＫＶ)として研修会を開催し、若い世代のボランティア活動の推進に努めた。（9回、延べ129人）。 | ◎ |

　　　 情報提供の充実および情報の共有化

基本目標

広報紙やホームページなどあらゆる媒体を活用した周知啓発や、出前講座等を通して、情報を必要としている人に「届ける」という意識で情報提供に取り組みます。また、地域住民や各種団体、行政や福祉関係者等の情報についても地域において共有化を積極的に進めます。

**推進目標１　必要な人へ必要な情報を届ける仕組みづくり**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①社協活動の積極的なＰＲ | 総務  地域 | ・社協だより、ホームページでの広報に加えて、福祉に興味を持つきっかけとなるイベント・講座等を開催し、PR用パンフレットによる周知を行う。  ・福祉委員に対する社協活動のPRに一層努める。  ・イメージキャラクターを活用した社協PR活動を推進する。 | ・地域福祉リーダー養成講座において、社協の事業概要の説明を行った。  ・高砂市のイメージキャラクターである「ぼっくりん」を社協フェアや広報誌等において、また共同募金会のイメージキャラクターである「あかはねちゃん」を社協フェアや街頭募金において活用し、PRに努めた。 | 〇 |
| ②住民が求める福祉に関する情報提供 | 総務 | ・社協が福祉に関する身近な相談窓口であることを周知するとともに、気軽に相談できる体制づくりに努める。  ・市民の声を取り入れ、さらに読みやすい広報づくりを心がける。 | ・福祉交流センター内（1F・2F）に掲示板を設置し、情報提供に努めた。  ・社協だより、ホームページにおいて周知を行った。また、社協が身近な相談窓口であることを紹介した「社協ミニガイド」(改訂版)を配布し、周知に努めた。 | ○ |
| ③高砂市地域福祉推進計画の市民への周知 | 総務 | ・策定時だけでなく、年次の進捗状況についても、社協だよりやホームページ等で周知する。 | ・ホームページに計画の進捗状況を掲載し、市民に周知した。 | ◎ |
| ④小地域福祉活動による情報提供 | 地域  包括 | ・小地域福祉活動の中で、社協出前講座や「介護なんでも出前講座」、市のまちづくり講座等をさらに活用してもらえるよう、周知を図ることにより、市民が身近な場所で情報が取得できるよう努める。 | ・町(校区)福祉推進委員会委員長や小地域福祉部会長に社協出前講座や市のまちづくり出前講座を周知し、小地域福祉活動等で実施した。  ・小地域福祉活動について　　5回　延べ287人  ・認知症サポーター養成講座　20回　792人  ・認知症サポーター活躍講座　1回　30人  ・地域包括支援センター紹介講座　6回　573人 | ○ |

**推進目標２　情報の共有化のための仕組みづくり**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①要援護者実態調査による地域福祉課題の把握と情報の共有（再掲） | 包括 | ・調査を通じて、要援護者（地域からの孤立や重層的な課題を抱える人、世帯）を把握し、関係機関・団体と協力して包括的、継続的な支援を行う。  ・また、災害時の救援活動に備えることを目的に、災害時要援護者の把握に努め、情報を市へ提供する。 | ・民生委員等の協力を得て、要援護者実態調査を行い、地域福祉課題の把握と情報の共有を図った。  要援護者　　　　　　634人  災害時要援護者　　　870人  一人暮らし高齢者　4,013人  75歳以上の高齢者二人世帯　1,327世帯  障がい者　　　　　1,364人  寝たきり高齢者　　　　37人  準寝たきり高齢者　　　65人  認知症高齢者　　　　　57人  ・調査結果を民生委員に配布。  ・小地域福祉活動の基礎資料とするため申請のあった箇所の福祉推進委員会等に情報を提供し、共有した。 | ○ |
| ②要援護者支援ネットワークづくり  （再掲） | 包括 | ・社協の個人情報保護規程及び市の個人情報保護条例や情報公開条例に基づき個人情報保護に配慮しながら、要援護者実態調査で明らかになった地域福祉課題を、市、社協、地域、福祉関係者が共有し、情報交換や情報共有を図り、共に解決策が見出せるネットワ－クづくりを進める。 | ・調査結果を民生委員に配布。  ・小地域福祉活動の基礎資料とするため申請のあった15箇所の福祉推進委員会等に情報を提供し、共有した。  ・ネットワ－クづくりに向け、困難事例ごとの協力要請、役割分担を行った。  ・「地域ケア会議設置要綱」の中で個別ケア会議を設け、事例に即したネットワークづくりを行った。 | ○ |

交流の促進とネットワークの構築

基本目標

複雑で多様化する地域での問題を解決するには、市民や行政機関、地域の関係団体等が年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、連携することが必要です。そのため、地域住民同士や地域を構成する主体間など、地域におけるあらゆる主体が交流でき、協働による取り組みが展開できる拠点づくりを進めます。

　　③NPO団体・企業等との交流・連携の強化

**推進目標１　地域のつながり、市民のつながりの強化**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①高齢者や障がいのある人等が気軽に交流できる地域でのつどいの場づくり | 地域 | ・ふれあいいきいきサロンの拡充や内容の充実を図れるよう支援し、多くの高齢者や障がいのある人等が地域で交流できるよう推進する。 | ・ふれあいいきいきサロンを実施する延べ66部会に対し、助成額を拡充し、サロン活動の支援を行った。  ・DVDやレクリエーション器材を整備し、貸出を行った。 | ◎ |
| ②生きがい対応型デイサービスセンター機能を活かした高齢者の交流の場づくり | 地域 | ・行事内容の工夫や、地域に出向く回数を増やし、高齢者同士がさらに交流できるよう努める。 | ・定例行事(9行事)、季節行事12回)、地域出前型茶話会(25回)を開催した。  ・総登録者数　　　　　643人  ・利用者数　　 延べ10,712人  定例行事　　延べ5,475人  季節・出前型　延べ709人  サークル数　　13サークル  　　　　　　　　延べ4,528人 | ◎ |
| ③ファミリーサポートセンター機能を活かした子育て中の親子の交流の場づくり | 地域 | ・会員拡充に努め、多くの親子が交流会や相互援助活動に参加できるよう推進する。 | ・ファミリーサポートセンターのリーフレット、会員募集、研修、交流事業のチラシを配布し、利用促進のための啓発に努めた。  ・登録会員数　718人  依頼会員　578人  提供会員　　96人  両方会員　　44人  ・年間延べ活動件数　1,111件 | ◎ |
| ④当事者組織の自立運営に向けた支援（認知症の人をささえる家族の会等） | 地域 | ・当事者組織の存在を周知するために情報提供等に努め、同じ悩みを抱える人同志が、交流を図り、つながりがさらに広がるよう支援する。 | ・認知症の人をささえる家族の会「いるかの会」には、社協だよりやホームページ、いるかの会だより等で情報提供を行い、同じ悩みを抱える人達が交流を図れるよう支援を行った。  ・若年性認知症とともに歩む「子いるかの会」に、会場提供や広報啓発の支援を行った。 | 〇 |
| ⑤「高砂市ユーアイ福祉交流センター」を拠点とした交流の促進 | 地域  VC | ・福祉交流センターを拠点とし、高齢者、障がいのある人、子育て世代、ボランティア等の交流を促進する。 | ・生きがい対応型デイサービス、ファミリーサポートセンター交流会、ボランティア活動センター養成・研修・交流事業、小地域福祉活動リーダー交流会等を福祉交流センターで実施し交流の促進に努めた。 | ◎ |

**推進目標２　地域の担い手間の交流と連携の促進**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①事業所の枠を超えた専門職相互の交流・情報交換の推進 | 包括 | ・施設間ネットワーク研修会等を通じて、他職種・他関係団体等との連携を深め、包括的・継続的に支援できる体制づくりに努める。 | ・施設間ネットワーク  訪問介護サービス提供責任者等の研修会（2回、80人）  ・介護支援専門員研修会（1回、61人）  ・介護支援専門員連携研修会（3回、113人）  ・地域密着型サ－ビス事業所の運営推進会議に参画12事業所 | ○ |
| ②市民による交流活動への支援 | 総務 | ・共同募金配分金を財源とした、公募方式による交流活動への助成事業の周知や、ふれあいいきいきサロン活動への支援に努め、市民による交流活動をさらに推進する。 | ・共同募金配分金を財源とした助成事業について、社協だより、ホームページでの広報に加え、自治会長、民生委員等に周知した。  ・共同募金配分金を財源とした助成事業（20団体）や、助成金を増額し、ふれあいいきいきサロン活動への助成支援（延べ66部会）を行った。 | ◎ |
| NPO団体・企業等との交流・連携の強化 | VC | ・NPO団体・企業等との連携・協働への取り組みをさらに進めるとともに、社協として団体間の交流の機会を設け、ネットワークの強化に努める。 | ・NPO連絡会を開催し、交流・情報交換を行い、ネットワークの強化に努めた。（5団体、6人）  ・NPO法人「高砂海文化21C」と共催で障がい者(児)との体験セーリングを開催した。（7組、19人）  ・市内企業に社協だより、ボランティア情報誌等を送付し、企業ボランティアの啓発に努めた。（年12回、18社） | ○ |

　　　　　　　　福祉や地域活動の担い手づくり・拠点づくり

基本目標

地域福祉活動を進めていくために、活動を担う人材や活動の中心となるリーダー、コーディネーターを育てるとともに、人的資源の確保と活用できる仕組みづくりを進めます。さらに、ボランティア団体やＮＰＯ団体、地域において福祉活動を進めている人の活動拠点づくりを進め、交流の促進を図ります。

**推進目標１　福祉や地域活動の担い手の確保と育成**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①福祉委員の養成 | 地域 | ・福祉委員制度の意義や役割について理解してもらえるよう積極的に啓発を行い、担い手の確保に努める。  ・福祉委員一人ひとりが、地域福祉を進めるリーダーとしてその役割を認識し、市民の身近な相談役が担えるよう、研修内容の充実を図り、育成に努める。 | ・福祉委員ハンドブック(改訂版)の活用やパワーポイントを使用した研修で、福祉委員の役割や活動についての周知を行った。  ・地域福祉リーダー養成講座（5回、延べ226人）  ・レクリエーション講習会（54人）  ・小地域福祉活動リーダー交流会（58人）  ・地域福祉活動セミナー（123人） | ◎ |
| ②ボランティア養成・研修事業による人材育成及び活動機会等の提供 | VC | ・幅広いニーズに対応できるようボランティアの育成、とりわけ若年層のボランティア育成に努める。  ・ボランティア登録者が求めている活動について、登録更新時にアンケートを実施し、登録者が求める情報提供やコーディネートに努める。  ・センターにボランティア掲示板を設置し、情報提供する。 | ・高校生ボランティア育成事業(ＴＫＶ)として研修会を開催し、若い世代のボランティア活動の推進に努めた。（9回、延べ129人）。（再掲）  ・幅広いニーズに対応できるようボランティア養成・研修・交流事業として実施した。（10事業、延べ622人）  ・ボランティア登録者が求めている活動について、相談時に要望等を聞きながら情報提供やコーディネートに努めた。  ・地域福祉課の情報発信用掲示板及びラックを活用し、ポスターやパンフレットによる情報提供を行った。 | ◎ |

**推進目標２　活動の拠点づくり**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①高齢者や障がいのある人等が気軽に交流できる地域でのつどいの場づくり(再掲) | 地域 | ・ふれあいいきいきサロンの拡充や内容の充実を図れるよう支援し、多くの高齢者や障がいのある人等が地域で交流できるよう推進する。 | ・ふれあいいきいきサロンを実施する延べ66部会に対し、助成額を拡充し、サロン活動の支援を行った。  ・DVDやレクリエーション器材を整備し、貸出を行った。 | ◎ |
| ②「高砂市ユーアイ福祉交流センター」を拠点とした交流の促進(再掲) | 地域  VC | ・福祉交流センターを拠点とし、高齢者、障がいのある人、子育て世代、ボランティア等の交流を促進する。 | ・生きがい対応型デイサービス、ファミリーサポートセンター交流会、ボランティア活動センター養成・研修・交流事業、小地域福祉活動リーダー交流会等を福祉交流センターで実施し交流の促進に努めた。 | ◎ |
| ③市民による交流活動への支援（再掲） | 総務 | ・共同募金配分金を財源とした、公募方式による交流活動への助成事業の周知や、ふれあいいきいきサロン活動への支援に努め、市民による交流活動をさらに推進する。 | ・共同募金配分金を財源とした助成事業について、社協だより、ホームページでの広報に加え、自治会長、民生委員等に周知した。  ・共同募金配分金を財源とした助成事業（20団体）や、助成金を増額し、ふれあいいきいきサロン活動への助成支援（延べ66部会）を行った。 | ◎ |

福祉サービス・制度の適切な利用の促進

基本目標

福祉サービス・制度が適切に利用されるよう、サービスに関する情報提供に加え、各分野の福祉サービスの充実や質の向上を図ります。また、利用者ニーズに応じたサービスのあり方を検討するとともに、権利擁護に関する取り組みや相談機能の充実を図り、利用しやすい仕組みを整備します。

**推進目標１　福祉サービスなどの情報提供の充実**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①地域包括支援センター事業の広報及び周知 | 包括 | ・社協だよりやホームページにおける広報を充実する。  ・今後も積極的に地域に出向き、介護なんでも出前講座をはじめ介護者のつどい等の事業を通してセンター事業の広報を行い、周知に努める。 | ・社協だより（地域包括支援センターだより）掲載（10回）  ・ホームページ（更新11回）  ・介護者のつどい（6回、55人）  ・広報、啓発活動（6回、573人） | ○ |
| ②情報マップ等を利用した社会資源の周知 | 包括 | ・よりわかりやすい情報マップ等を作成し、市民にとって身近な社会資源の情報提供に努める。 | ・介護支援専門員用に介護予防　施設・グループ紹介を発行し委託先の居宅介護支援事業所へ配布した。 | △ |
| ③ボランティア活動情報提供の充実 | VC | ・「ボランティアハンドブック」を適宜見直し情報提供の充実に努める。  ・高砂市ボランティア活動センターを周知するための概要パンフレットを作成し情報提供に努める。 | ・ボランティアハンドブック「であい ときめき ボランティア」を作成し、各種講座をはじめ、関係機関、企業等に配布した。  ・社協だより、ホームページでの情報発信及びボランティア情報「ねぇきいて!!」を年6回、「ぼらんてぃあ かわら版」を年2回発行し、情報提供に努めた。 | ○ |

**推進目標２　安心して福祉サービスを利用できる体制づくり**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①相談・支援体制の強化 | 全担当 | ・社協紹介のパンフレットや社協だより等において、社協が福祉の相談窓口であることをわかりやすく広報する。  ・どんな相談にも適確に対応できるよう、職員の資質向上を図り、社協の各部門における相談体制を充実する。  ・相談から支援につなげる体制づくりの充実を図る。 | ・社協だより、ホームページにおいて広報を行った。また、社協が身近な相談窓口であることを紹介した「社協ミニガイド」(改訂版)を配布し、周知に努めた。  ・職員の資質向上を図るため、職場内研修や外部研修に積極的に参加した。 | ○ |
| ②出前相談等による柔軟な相談体制の充実（地域包括支援センター） | 包括 | ・地域包括協力センターとの連携を強めるとともに、市民の身近な窓口である公民館等に職員が出向き、市民に分りやすく、相談しやすい体制づくりに努める。 | ・認知症サポーター養成講座（20回、792人）  ・認知症サポーター活躍講座　(1回30人)  ・認知症キャラバン・メイト連絡会　(2回、34人)  ・広報、啓発活動（6回、573人）  ・地域包括支援センター・協力センター担当者会議の開催  (7回) | ○ |
| ③権利擁護事業の推進 | 包括 | ・高齢者の権利擁護のために、虐待防止への相談・対応を適切に実施するとともに、福祉サ－ビス利用援助事業や成年後見制度等の周知に努める。 | ・権利擁護講演会（53人）  ・高齢者虐待相談件数（46件）  ・成年後見相談件数（27件） | ○ |
| ④福祉サービス利用援助事業の推進と周知・普及 | 地域 | ・市内の居宅介護支援事業所や市福祉部等に周知を行い、援助が必要な人への利用促進を図るとともに、関係者間が連携を深めて円滑な運営ができるよう推進する。 | ・社協だよりに事業紹介を掲載し、市民への周知と利用促進に努めた。  ・市福祉部、関係機関等と連携し、新たに5名と利用契約を結び利用促進を図った。  利用契約者 延べ155人  援助回数 　延べ356回 | ◎ |
| ⑤生活困窮者への支援 | 地域 | ・生活福祉資金貸付事業の相談体制の充実を図り、関連する制度や社会資源の把握に努め、関係機関との連携を強化し、生活困窮者への支援に努める。 | ・生活困窮者支援を行う市の自立相談支援事業所や生活保護担当課等連携を図りながら、生活福祉資金貸付制度による相談対応と資金貸付による世帯更生で生活困窮者への支援を行った。 | ○ |
| ⑥自立支援に向けた介護予防マネジメントへの取り組み | 包括 | ・地域包括支援センターの適正な人員配置に努め、利用者に遅滞なくサ－ビスを提供するとともに、とりわけ、増加が予想される二次予防事業対象者(要介護状態になるおそれのある高齢者)にかかるマネジメントについては、チームアプローチ機能(①保健師、②主任介護支援専門員、③社会福祉士の３職種の専門性を活かした支援)の一層の強化を図り対応する。 | ・要支援及び事業対象者高齢者への介護予防ケアマネジメントを年間延べ14,920件行った（前年比約3.9％増）。 | ○ |

強化目標

　　　　　　　社協組織の経営（運営）体制の強化 ～活力ある組織に～

　ここでは、６つの基本目標の実現に向けて必要な社協組織自体の課題を明らかにし、社協組織の経営（運営）体制強化のための方策を示しています。

　社協組織の経営（運営）体制強化のための取り組みとして、次の３つの推進目標と、それぞれ推進目標に対して、重点的取り組み項目を設定しています。

**市民に信頼される、開かれた社協組織づくり**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①事業の内容が市民に周知され、市民の声が反映される社協づくり | 全担当 | ・社協だより・ホームページでの広報に加えて、概要パンフレットの作成や出前講座の開催により、周知に努める。  また、障がいのある人や高齢者に配慮した情報提供に努める。  ・職員が地域に積極的に出向き、またアンケート調査等により、市民の要望等の把握に努める。 | ・社協だより、ホームページでの広報に加え、「社協ミニガイド（改訂版）」を市民や福祉委員等に配布し、周知した。  ・事業開催の際、参加者にアンケートを実施し要望等を把握した。  ・社協フェアのチラシを作成し、関係機関・団体、福祉委員等に配布し、周知した。  ・地域担当制により職員が町(校区)福祉推進委員会や小地域福祉部会が実施する事業に出向き、地域支援に努めた。  ・社協だより、市広報誌等について点訳及び音訳し、視覚障がいのある人への情報提供に努めた。  ・ホームページにおいて、障がいのある人や高齢者に配慮した情報提供に努めた（音声対応、文字の拡大）。  ・地区懇談会や福祉委員アンケートを実施し、要望等の把握に努めた。 | ○ |
| ②事業の進捗状況を評価し、新規事業開拓や改善につなげる体制づくり | 全担当 | ・理事会・各種委員会・職員会議での協議に加え、地域福祉推進計画における取り組み内容や進捗状況を役職員に周知し、新たな課題の抽出や新規事業開拓等につなげる。 | ・理事会において地域福祉推進計画の進捗状況について審議した。  ・理事会・各種委員会・職員会議（担当理事が参画）において、事業の進捗状況等について役職員に周知した。  ・理事会・職員会議等において、社会福祉充実残額を活用した新規事業の検討を行い、社会福祉充実計画を策定した。 | ○ |
| ③苦情解決・危機管理体制の構築と推進 | 全担当 | ・苦情解決体制については、職員一人ひとりが要綱を遵守し、適切な苦情解決に努める。  ・危機管理体制については、「ひやりはっと報告書」を活用した研修のあり方を見直し、より一層事故防止に努め、利用者に安心してもらえるサービス提供に努める。 | ・苦情解決体制については、職員一人ひとりが要綱を遵守し、適切な苦情解決に努めた。  ・介護事業の利用者に契約の際、重要事項説明書において苦情・相談窓口の説明を行った。  ・「高砂市地域包括支援センター事業継続マニュアル」の日ごろの備えについては引き続き取り組んだ。  ・「ひやりはっと報告書」を活用した事例検討に加え、気づきを重視した事例検討を取り入れるなど研修のあり方を見直した。 | ○ |
| ④監査体制の強化 | 総務 | ・監事に、会計士または税理士を選任し、監査体制を強化する。 | ・税理士資格を有する監事を含む監事2名体制により、年2回内部監査を行った。 | ◎ |
| ⑤事務局体制の整備、連携の推進 | 総務 | ・担当者会議や統括・主任連絡会議を通じて、事業の進捗状況等の共有化を図り、各部門間の連携を深める。  ・人事評価制度や外部研修を活用し、中間管理職、中堅職員の育成に努める。 | ・担当者会議や課長・主任連絡会議を定期的に開催し、事業の進捗状況等の共有化を図った。  ・人事評価制度や外部研修を活用し、中間管理職、中堅職員の育成に努めた。 | ○ |
| ⑥コンプライアンス（法令遵守）と個人情報保護の遵守 | 全担当 | ・職員一人ひとりが、法令を理解・遵守し、個人情報保護に配慮した事業を実施するよう、研修等を行い、共有化を図る。 | ・職員一人ひとりが、法令等を理解・遵守し、個人情報保護に配慮した事業を実施するよう、共有化を図った。  ・介護事業の利用者に個人情報利用同意書の説明を行い、同意書に従って職務を行った。 | ○ |

**経営安定化に向けた財政基盤づくり**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①自主財源の確保・拡充 | 総務 | ・自主財源の使途について、より市民や法人等の理解・共感を得られるよう、財源を活用する新たな事業の検討を行い、加入促進のPRを図る。 | ・善意銀行寄付金や共同募金の使途を明示したチラシを作成し、配布や掲示をして周知を図った。  ・善意銀行寄付金を活用し、新たに福祉サービス利用援助事業の利用料減免及び事業用車輛の入れ替えを行った。 | ○ |
| ②経営を意識した役職員体制づくり | 全担当 | ・担当の役職員だけでなく、研修等を通して、役職員一人ひとりが経営に関する知識を身につけ、法人全体において経営を意識した取り組みを行う。 | ・外部研修に役職員が参加した。  ・経費の節減に努めた。 | ○ |
| ③介護保険事業等の経営安定化 | 介護 | ・訪問介護事業においては、登録ヘルパーの確保に努め、利用者数の増加を図る。  ・居宅介護支援事業においては、介護支援専門員を増員し、利用者数の増加を図る。また、要介護者の担当件数の増加を図る。 | ・訪問介護事業においては、登録ヘルパーの確保及び研修等を通じ質の向上に努めた。  ・居宅介護支援事業においては、介護支援専門員等の資質の向上に努めた。  ・相談支援事業においては、相談支援専門員の資質向上に努めた。 | ○ |
| ④資産の運用と有効活用 | 総務 | ・資金運用規程に則り、満期となる債権及び預貯金（流動資産）等について、安全・有効な資産運用に努める。 | ・資金運用規程に則り、債権及び預貯金の分散運用や利率の高い定期預金等での運用に努めた。 | ◎ |

**職員の資質向上の体制づくり**

| **重点的取り組み項目** | **担当** | **平成25～29年度の取り組み内容** | **進　　捗　　状　　況** | |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **平成29年度の状況** | **評価** |
| ①職員研修の実施による職員のスキルアップ | 総務 | ・職場内研修を定期的に実施し、また外部研修への参加を支援する。 | ・職場内研修として、新任職員研修、救急救命講習や地域包括支援センター職員研修を実施した。また、外部研修に積極的に参加した。 | ○ |
| ②人事評価制度の推進による人材育成 | 総務 | ・人事評価制度を活用し、人材育成に努める。  ・職員の意欲を高める取り組みについて検討し、資質向上に努める。 | ・正規職員ならびに嘱託職員を対象に人事評価制度を実施し、人材育成に努めた。  ・常勤嘱託職員に対する特別休暇取得要件の見直しや社会福祉充実残額を活用した処遇改善を行った。 | ○ |
| ③働きやすい職場環境づくり | 総務 | ・より相談しやすい衛生委員会をめざし、職員の意見を取り入れながら、労働環境改善への取り組みを行う。 | ・衛生委員会において、産業医による個別相談や職場の安全パトロールを行った。また、アンケートを実施し、職員の意見・要望を取り入れ、職場環境の改善に努めた。 | ○ |
| ④メンタルヘルスケアの推進 | 総務 | ・「職場における心の健康づくり計画」を毎年度策定し、メンタルヘルスの推進を図る。 | ・衛生委員会において全職員に対するストレスチェックと希望者に対しての個別相談を実施し、心身の健康向上のための取り組みを推進した。 | ○ |

高砂市福祉マップ